



一緒につくる

谷田部高子

問いを広げる

もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る
善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、
世界中の子どもに、生涯消えることのない「セン
ス・オブ・ワンダー」神秘さや不思議さに目を見
る感性」を授けてほしいとたのむでしょう。
(中略) 妖精の力にたよらないで、生まれつきそ
なわっている子どもの「センス・オブ・ワンダー」
をいつも新鮮にたもちつつけるためには、わた

したちが住んでいる世界のよろこび、感激、神秘
などを子どもといっしょに再発見し、感動を分か
ち合ってくれる大人が、すくなくともひとり、そ
ばにいます必要があります。

『センス・オブ・ワンダー』^{注1}より
時折思い起こすこの言葉は、保育者として日々子
どもたちと過ごす私に、いろいろな問いを投げかけ
ます。私は子どもの感動と共にいる大人になること
ができているだろうか？ 子どもたちの感性に出あ
い、彼らの感動を分けてもらうのと同時に、自分自

身が喜び、驚き、美しいと心から思うものをためら
いなく大事にすることができているだろうか？ 保
育者としての私の感性を、いま言葉にしてみるなら
どんなことだろう？ 私は子どもたちの姿のどこに
感心し、どこを応援したくて、どんなことを共有し
たいと思っているのだろうか？ ……これらの問い
を手がかりに、ここでは小学部五年生のRさんがい
ろいろな場所でお弁当を食べることについてふりか
えてみたいと思います。どこかで誰かの別な問い
が生まれるきっかけになってくれたらと願いつつ。

Rさんのお弁当

私が勤める愛育養護学校は、幼稚部四人と小学部
十九人、合わせて二十三人の小さな学校です。今年
度は、小学部を三つのクラスに分けて編成していま
す。子どもたちの生活はクラスが基盤となりますが、
空間的にも人間関係においてもクラスを越え学校全

体に広がっています。あらかじめ設定された時間割
はなく、子どもたち一人ひとりが周りの大人や友達
とのかかわりの中で活動や生活を展開させ、自分の
一日をつくっています。^{注2} 昼食の時間と場所も、子ど
もたちと一緒に決めていきます。

私が担任をしているRさんは、実にさまざまな場
所でお弁当を食べます。クラスの友達は食堂（調理
ができるように整えられた部屋）でお弁当を食べる
ことが多いのですが、Rさんはどこで食べるかを毎
日その都度決めていきます。Rさんは幼稚園の子ども
たちなど自分より小さい人たちに気持ちをかけてい
て、話しかけたり、一緒にトランポリンを跳んだり、
公園への散歩に誘ったりし、お弁当もよく一緒に食
べています。また時には、ベッド一つでスペースが
ほぼいっぱいの小さい部屋を締め切り一人で食べる
ことも、またRさんがその部屋で食べていることを
わかっていて、自分もそこへお弁当を持ってくる友

達と一緒に食べることもあります。庭のぶらんこで遊んでいるRさんの所へ、お昼の時間よりもずっと早くお弁当を食べる友達が、Rさんのお弁当を持ってきてくれて、庭で一緒に食べることになる日もあります。そのほか、ベランダの隅、階段の踊り場や、出窓の前の小さなスペースなど、あらゆる所がRさんのお弁当の場所になります。

Rさんは大勢人が集まる場所や、自分にとって大きすぎる音や、予想のつかない友達の動きなどが苦手なようです。強い近視であることもあり、Rさんが予測できないものはとても怖いものなのでしょう。その特性も、Rさんが周りの状況によってお弁当の場所を選ぶ理由の一つなのかもしれません。

共同で考える

Rさんのお弁当については、ミーティングでもよく話題に上り、たとえば次のようなことが話し合わ

れてきました。

○Rさんが「ここがいい」と言っても、大人が場所や時間を提案（床ではなくてテーブル、一人ではなくみんななど）してもいいと思う。Rさんはそれを受け入れるところまで成長していると思う。

○床で食べるなら、せめて積み木を運んでテーブルにしたらどうか？ 床でそのままの食事は、文化的なものを伝えそびれているといえないか。

○いろいろチャレンジしたい気持ちはもっていて、ちよつと怖かったり気が引けたりして一度断わることがあっても、もうひと押ししてもらえば、踏み出せるんじゃないか？

中には私には思いつかなかった発想もあり、戸惑うことや反発の気持ちをもつことも、「そうかもしれない」「よくわからないけれど、やってみてもいいかもしれない」と思えることもありました。自分には足りないところが明らかになって情けないような申

し訳ないような気持ちになり、いつの間にか縮こまっている自分に気づくことも多々あります。考えが自分のものになっていないことをやってしまい、子どもに対して後ろめたい思いをもったり、自分の素直な感情が動かなくなつて子どもとの時間が楽しめなくなったり、それでもとにかくやってみたことで新たな自分の考えが生まれることもあります。

「ちがうー」と出あう

食堂で何人かの子どもたちがお弁当を広げていた時、私は「Rちゃんもここに来て一緒に食べようよ」と誘いに行つたことが何度かあります。Rさんは近くまで来たこともありましたが、部屋のすぐ前の廊下や、部屋と廊下の境目に「ここ！」と言つて座り込むこともありました。食堂の近くまでは来たRさんの様子から、私は「もうひと押し」をしてみました。「えー？ いいじゃない、来て来て」と、可動式

の椅子にRさんに乗せて、遊び紛れに強引に連れてきてしまったこともあります。みんなが座っているテーブルを勧めると、Rさんは「ちがう！」と言つて、自分が「ここ！」と言つた所に引き返したり、あてがわれた椅子から二つ三つ、ずれた椅子に移つて斜めに座つたり、同じ部屋の別のスペースに行つて座り直したりもしました。

大人の個性や、Rさんとその大人との関係性によつて、Rさんが選ぶことも違つてくるのだと思いますが、その時、私との間ではRさんは同じテーブルにはいなくても、独自の位置でみんなと一緒にいる気持ちになっているのだな、と改めて知ることができました。

私が差し出したいもの

前述のRさんの特性を配慮して、Rさんが安心して生活や活動ができるよう、Rさんのお弁当の場所

を初めから大人が用意してあげるやり方もあるのだ

と思います。ですが、好きな歌の歌詞を替えて自分のオリジナル曲につくり替えて楽しみ、友達とのかけっこも自分だけ後ろ向きで走りお腹を抱えて笑っているRさんといると、Rさんが毎回状況の中で自分にちょうどいい所を見つけることに大きな意味があるように思えてきます。Rさんが「ここ！」と言うことで、それまで何でもなかった空間が、お弁当を食べる重要な場になり得ることに私は大きな魅力を感じています。人と共に過ごすさまざまな状況の中で、自分はどうかをしっかりと感じて、その時その時、ちょうどいいものをつくり出すことのおもしろさを共有したいと思っています。「みんなでテーブルを囲む楽しさを、Rさんと共有したいいな」Rさんにとって大丈夫なことがもっと増えたらいいな」と思うのと同じくらい、Rさんが自分だけの場所をあらゆる所につくり出すことを一緒に楽しみ

たい気持ちがあります。

私がRさんにいちばん差し出したかったものは、Rさんが選んだその場所を「私はここで食べるのよ」と堂々としていられる場所にするひと工夫だったのだと思います。

ちよつと素敵な敷物やテーブルクロス、時には草花を運んできてみたり、そこで一緒にお弁当を食べたり、Rさんの隣で本を読んだりしてくれそうな友達を呼んできたりすること。友達が来ても、Rさんは少し離れた所に移って背を向けてお弁当を食べ始めたりもします。Rさんに用意した積み木のテーブルでは友達がせつせと絵を描き、Rさんはベランダの隅で時どき空を見ながらお弁当を食べていて、何かおかしいな光景です。そうやって互いに自分を出し合って、子どもたちと一緒にそこに何かちよつと素敵なものをつくっていくことが、私は本当に好きなのだ実感します。

違うものの中で

「テーブルにつこうよ」という提案に出あって、Rさんの「ここー」というきっぱりとした意志が強まったのだと思います。また、子どもたちとの間でも、自分とは違う友達にაცოგれたらうらやんだり、嫌な思いをして悲しかったり悔しかったり、苦手なものから距離をとって過ごしたりする中で、「自分はこのなんだ」とゆっくりとはつきりしていくのでしょう。「自分はこうなんだ」と思う体験が楽しさとして重なっていけば、それはゆったりとした自信となり、違うものをも取り入れて柔軟に自分を育てていくことができるように思います。

保育者は、保育の場や話し合いでほかの人のあり方にふれて、自信を失ってゆらいだり混乱して疲れてしまったりすることもあります。自分とは違う考え方に助けられ、自分の考えを広げられることも、

「やっぱりこれだ」と確かめ強めることもあります。

Rさんが自分の場所で堂々とお弁当を食べるように、私も堂々と自分の感性で動き、自分の考えを言葉にしていきたいと思います。また、別のとらえ方やかわり方をする大人が共にいてくれることにほっとしながら、人の意見や自分の意見にとらわれてしまわない私でありたいと願っています。そうして、その時その時、それぞれの感性をもった人たちと保育の場を一緒につくっていく、その楽しさを重ねていけたらと思うのです。

(愛育養護学校小学部)

注

1 レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳 新潮社

一九九六年 P.23～24頁

2 調理や工作、音楽など、大人から活動を提案する時にも、子どもたちは自分のやり方とペースでそれを取り入れています。お弁当は時間になると誘い合ってクラスルームなどに集まって食べることもあります。